



贈呈式を前にインタビュー

ーふるさと西脇市で懐かしいと感じることや好きな場所は。

母が住んでいたころはよく帰省しており、家の周りの景色が今も心に残っています。往時は田畑が広がり、犬の散歩で高田井町の池の方まで行き、高台から眺める景色に、童謡「ふるさと」のような懐かしさを感じていました。西脇中学校時代の化学クラブで調査した杉原川も、思い出深い場所です。

ー経団連会長への就任を依頼されたときの率直な感想は。

「大変な役目をいただいた」と思いました。最初は迷いもありましたが、周囲の後押しもあり、社会経済の発展のために引き受けることを決めました。孔子の言葉「義を見てせざるは勇なきなり」も思い出し、覚悟を持って就任しました。

ー経団連会長として、特に力を入れて取り組まれたことを教えてください。

市場経済の中に社会性を取り入れる「社会性の視座」を大切にしました。気候変動や格差の拡大などの課題に向き合い、経団連の提言をまとめ、当時の岸田首相にも政策に反映していただきました。誰もが将来を描ける社会の構築が必要だと考えています。



社会情勢や国際情勢を力強く語っていただきましたが、柔らかな口調で穏やかな人柄が印象に残りました。

①経団連第15代会長就任のあいさつ②経団連「夏季フォーラム2024」で岸田首相（当時）に軽井沢宣言を手交（写真提供：日本経済団体連合会）

③④⑤⑥2025年日本国際博覧会協会会長として大阪・関西万博の会場イベントと式典に参加（写真提供：2025年日本国際博覧会協会）



受章の喜びを語る十倉雅和さん



講演でこれまでの歩みとともに、経団連会長時代を振り返る

贈呈式に続く講演会では十倉さんが「社会性の視座」と題して講演。また、祝賀会では地元の懐かしい名店の料理も並びました。地元経済産業界と同級生からのお祝いのスピーチや歓談の時間を過ごし、約110人の出席者とともに十倉さんの受章を祝福しました。



十倉雅和さんに
名誉市民称号を贈呈

横尾忠則さんが描いた肖像画を手にする十倉雅和さん（右）と片山象三市長（左）

西脇市出身の十倉雅和さんへの名誉市民称号贈呈式を7月12日に西脇ロイヤルホテルで、開催しました。

十倉さんは住友化学株式会社会長を務め、一般社団法人日本経済団体連合会（経団連）第15代会長として経済界をけん引。また、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会会長として、大阪・関西万博の開催にご尽力されました。

市では、長年にわたりわが国の発展に大きく寄与されてきた十倉さんの功績を称え、社会全体の利益と幸福の向上に貢献された偉業を高く評価し、名誉市民の称号を贈呈しました。

市が名誉市民の称号をお贈りするの、世界的美術家の横尾忠則さんに続いて2人目です。式では名誉市民章と顕彰状のほか、記念品として横尾さんが描いた十倉さんの肖像画を贈呈しました。



名誉市民章と顕彰状